

別記様式（第 5 条関係）

		会 議 録
会議の名称		令和 8 年度 第 4 回行政評価委員会
開催日時		令和 8 年 7 月 1 5 日(水) 午後 7 時 0 0 分から 午後 9 時 0 0 分まで
開催場所		市役所 別館 1 階 大ホール
委員名		(1) 出席委員 加留部 貴行、木本 圭子、大石 くみ、芹野 千佳子、中川 孝晃、山下 永子、山下 耕治 (2) 欠席委員 なし
所管課職員職氏名		事務局 経営企画部長 花田 積 経営企画部経営戦略課長 向井 泰博 経営企画部経営戦略課企業誘致係長 福原 雄貴 経営企画部経営戦略課経営戦略係長 古賀 雅典 経営企画部経営戦略課経営戦略係 加藤 慎太郎 担当 経営企画部経営戦略課長 向井 泰博 (再掲) 経営企画部経営戦略課企業誘致係長 福原 雄貴 (再掲) 経営企画部経営戦略課経営戦略係長 古賀 雅典 (再掲) 経営企画部経営戦略課経営戦略係 加藤 慎太郎 (再掲)
会 議	議 題 (内 容)	1 会長あいさつ 2 行革の中間答申に向けた総括 3 まち・ひと・しごと創生総合戦略及び効果検証について 4 福津市第 3 期まち・ひと・しごと創生総合戦略について 5 各基本目標の総括説明、及び実績報告（交付金対象外分）
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	2 名
	資料の名称	【資料 1】 (再調整版) 令和 8 年度行政評価委員会_スケジュール 【資料 2－1】 第 3 次行革大綱実施計画_全体総括_素案（修正版）※非公開 【資料 2－2】 総括に係る委員からの意見※非公開 【資料 3】 まち・ひと・しごと創生総合戦略及び効果検証について 【資料 4－1】 第 3 期福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略・人口ビジョン 【資料 4－2】 KPI 一覧_第 3 期総合戦略 【資料 5】 (一部抜粋) 令和 7 年度効果検証会議報告書
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録 ☒ 録音テープを使用した要点記録 ☐ 要点記録 記録内容の確認方法
その他の必要事項		

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

第4回 会議録

※本会議録で用いる略称に係る補足

行革大綱・・・福津市行財政改革大綱

災害・・・・・・当会議録では主に、令和7年8月に発生した記録的な大雨による大規模災害を指す。

付帯意見・・・第3次福津市行財政改革大綱策定に係る、行財政改革審議会からのコメントに記載された、同大綱実施時の留意点（大きく以下5項目）

①改めて「何のための行財政改革か」を市民と職員が理解すること

②市民に対して「タイムリーかつ丁寧な説明と対話」を行うこと

③これからの「創造的な行政経営」の具体的な姿を示すこと

④実施の「優先順位」を示すこと

⑤生活者起点を意識した「市民のための人・組織づくり」を行うこと

総合戦略・・・福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略

事務局

（開始に先立ち、傍聴人の入室を案内）

～傍聴人入室～

事務局

（【資料1】をもとに、主に第4回・第5回の詳細について説明）

1 会長あいさつ

会長

今回は初めて取り扱うテーマも含め、ボリュームのある次第となっている。どうぞよろしくお願いいたします。

2 行革の中間答申に向けた総括

担当

（【資料2-1】pp.6-8、及び【資料2-2】について説明）

会長

それでは委員から質疑、意見等あるか。

委員

各取り組み項目の指標について、改善の方向性が見えてくるとよいのでは。例としてDXであれば、「窓口の待ち時間の短縮時間」など、行政サービスの向上や、他取り組みに回せるマンパワー・予算が増えた等が客観的に見えるものが望ましい。せっかく長期的かつ力を入れてこられた取り組みが「実施した」「検討した」といった結果で終わるのは勿体なく思う。

担当

今回はあくまで第3次行革大綱の総括として書かせていただいた。次期計画の策定も未定である中、総括において、今後の指標設定の仔細にまで言及するのは難しいと思われる。例えば、総括とは別に答申の中で「委員から示唆をいただいた一方向性」として作成する方法がいかかなど。

会長

指標に関連し、取り組みを経て金額面でどれくらいの出入りがあったかは私も関心がある。包括管理業務委託の導入や民営化などは原資を稼いだという点で大切であり、他方、災害によって想定外の支出もあったものと拝察する。ある程度大まかでも定量的な効果、それも一過性だったのか、経常的なものなのかを整理し、例えば事業費全体だけでなく人件費など表面化しにくい部分でどういった影響があったかなどを確認

	し、「今後こういった財源を確保していきたい」や「経常的に効果がある取り組みを実施していきたい」等に繋がればと考えた。
担当	前回の第3回行政評価委員会（令和8年7月6日実施）における【資料1】p8に、個別実施計画（効果額）一覧をお示ししている。取り組み項目ごとに、一過性のものもあれば、経常的な効果があったものもある。また、市全体の観点として、概ね毎年度作成している「中期財政見通し」においても、行財政改革の効果を今後どれくらい反映できるのかを記載し、公表している。今後の方向性をこういった形で示していくかは、思案していきたい。
委員	過去に行財政改革に係る会議に携わったが、当時とはとにかく施策や施設、職員を削減するに重きが置かれていた。それに対し、今後は市民を置き去りにしない、そういった生活者目線をより一層大切にしていたと思う。 社会教育に関する会議に出席した際も、「ひと・もの・こと」が度々キーワードになる。削減できるものは限界に近づいてきているため、これからは、柔軟性・アレンジ力を持った”生み出す”人材を育成することで「お金を生み出す」「市民や企業等を上手く巻き込む」に寄与する、そういった視点へのシフトも重要になってくるのでは。
担当	昨今、議会等、また国の方向性としても、客観的な評価指標が益々重要視されてきている。ただし、「取り組みの結果、市民等にもたらされる便益」はスケールが大きくなるほど、自治体レベルで正確かつ定期的（理想は1年おき）に把握することが困難な側面もある。例えば、国勢調査や経済センサスなどの公的統計も、数年に一度実施であったり、調査実施から結果公表に至るまでスパンがあったり、といった留意事項がある。行革大綱だけにとどまらず、各種計画等における指標の精査は、今後全庁的に検討していきたい。
委員	他委員も触れていたが、より市民の感覚で「住みやすくなったな」と感じられる作りこみになればと思った。
委員	全体を通じて、この部分が上手いかなかった、はあるか。歳入の拡大など、主に環境要因で目標達成できなかったものについて、何か手立てはないだろうか。
担当	所感で申し上げると、財政効果額の目標との乖離の大きな要因として、「浄化センターの維持管理費の削減」が挙げられる。同取り組みについては、業者との調整等が難航する中、昨今の物価高騰という環境要因も加わって、結果効果額が想定ほど大きくならなかった、と分析している。また、「市有財産の有効活用」については行革大綱以外の取り組みでも関連してくるものと捉えている。
委員	AI など新しいテクノロジーの導入でこういったことができるようになった、そうした視点を持って今後取り組んでいただけたらと考えた。
委員	こういった行政活動の結果を住民等に理解してもらうためには、可能な限り定量的な指標が望ましく、また、他自治体などとの比較があると、より説得力のあるものになると思う。
3 まち・ひと・しごと創生総合戦略及び効果検証について	
担当	（【資料3】をもとに説明。【資料5】は参考として提示。）
会長	委員から確認などあるか。
委員	交付金対象外の取り組みについて、別の場で外部評価を行うことがあるのか、それとも内部評価のみになるのか確認したい。

担当	内部評価のみを想定している。先に申しあげたが、交付金の取り扱い上、交付金活用事業は外部評価をしていただく前提がある中で、時間の制約上、切り分けさせていただいた次第である。
会長	今年度は効果検証の初年度として、説明に重点を置く必要があることから、今おっしゃられた手法を採るとして、次年度以降どうしていくかについては大きく2通りの方法が考えられる。1つが、行政評価委員会そのものの実施回数を増やす、そしてもう一つが、その他のテーマ（行財政改革に係る取り組み及び施策など）も含め各優先順位を鑑み、調整するやり方である。そのあたりはイメージをお持ちか。
担当	今年度は第3次行革大綱の5年分の総括、第3期総合戦略効果検証の初年度と、ボリューム感のある案件が重なってしまったが、第3次行革大綱に関しては取り組み項目の一部を臨時行財政運営方針に引き継ぐため、次年度はある程度圧縮できるかと思われる。時間的余裕があれば、今回内部評価のみの取り組みについても扱えないか検討したい。 また、日々多忙を極める委員が揃う日時を決めるのは容易でないこともあり、既存の7回をより有効に活用していく方向でいきたいと考えている。
会長	今回対象外の取り組みは内部でしっかり評価し、適宜来年度報告するなどしていただければ。
委員	次回の外部評価においては、具体的な数値実績などが示されるという認識でよい。仮に時系列データを見る場合、例えばある指標が福津市では5年間で2倍になった一方で、自治体Aでは5年間で10倍となっているかもしれない。全てのデータとまではいかないが、できる限り他自治体との比較がある方が、より客観的・多角的評価に繋がるという点で望ましい。
担当	【資料5】の事業実施報告書のある程度踏襲し、委員の皆さんに報告する予定である。
担当	第3期総合戦略では、今回交付金対象外のものも含め、【資料4-2】の通りKPIを設定している。委員が特にご興味ある指標があれば、他自治体との比較の観点も踏まえ、次回にフィードバックしたいと考えている。
委員	以下2点お伺いしたい。 ①今回、交付金活用事業がDMO・キッカケラボとなっているが、各部署の挙手性なのか事務局で選んだのか等、選定に至った経緯を伺いたい。 ②我々委員の検証結果が、具体的に今後の取り組みにどう繋がっていくのかが見えると議論がしやすいと思う。その点を確認したい。
担当	①地方創生に係る国の交付金であるため、何年で成果が見込まれる取り組み等、対象となるには一定の要件がある。福津市の取り組みの中で、国が示す地方創生により資するものについて、担当部署とも調整のうえ、国に計画を提出し、結果その2つが採択されたという流れである。 ②福津市に数多ある事業について、各所管課は日頃から内部精査するのは勿論であるが、そこに外部評価による多角的な視点を加えることで、次の事業立案に適宜活用させていただいているところである。
委員	そもそも地方創生は、他自治体と比較してどうだというよりも、各々の自治体を持つ独自の強みを伸ばす、が根底にあると認識している。KPIとともに基本目標や取り組みを作成し、当初決めたことが毎年度どれだけ達成できているかを追っていくという点で、随時見直しを図る行革大綱とはまた違う視点で評価することになるかと。しかし、これ

担当

会長

担当

4 福津市第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略について

担当

委員

担当

委員

担当

事務局

会長

5